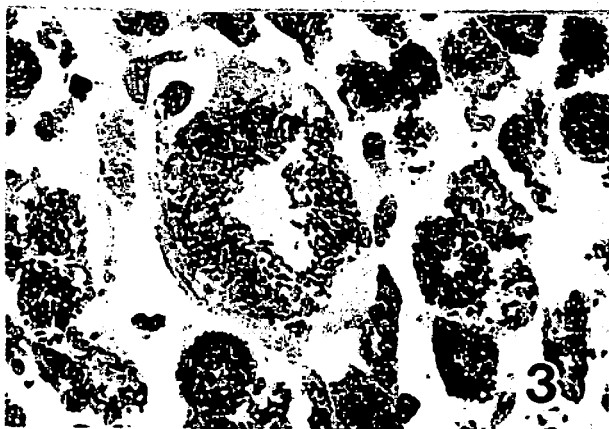
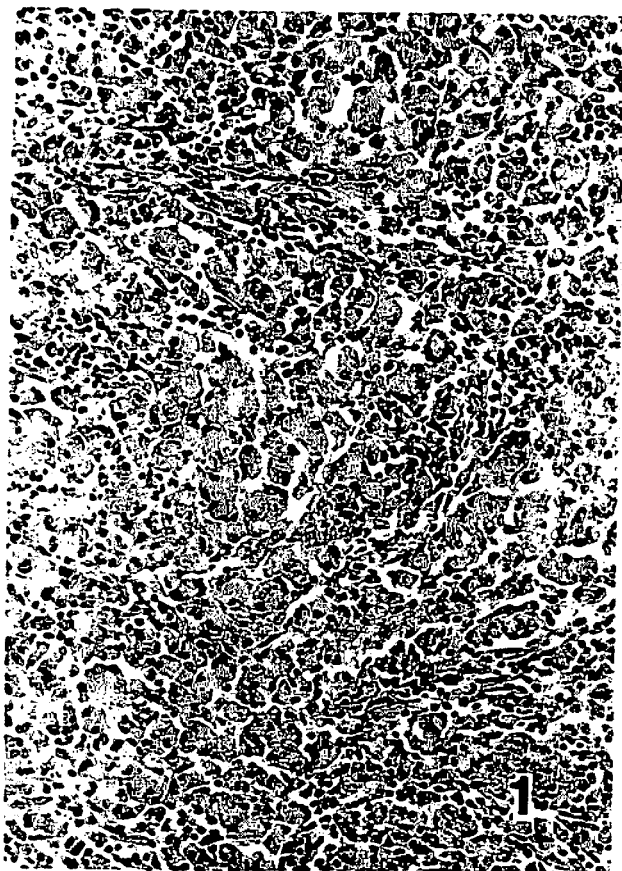


# 競走馬の肺

競走馬総合研究所病理研究室出題 第28回獣医病理学研修会提出標本No.495



動物：馬，サラブレッド種，雌，4歳1ヵ月齢，鹿毛，北海道産。

臨床的事項：昭和60年9月，日本中央競馬会美浦トレーニングセンターに競走馬として入厩し，昭和61年7月までレースに出走していた。その後馬体調整のため2ヵ月間放牧休養，10月に再入厩し調整を重ねていたが12月初め調教中に鼻出血を認めた。内視鏡検査により咽喉頭部の炎症を認め，加療後約1ヵ月放牧休養し，昭和62年2月19日再入厩した。翌日の診察時，肺胞音粗励，呼吸は鼻翼を開帳し軽度の二段式呼吸であった。その後微熱が続き食欲不振，消瘦が目立ち元気消沈したため2月28日入院。種々加療を試みるが良転せず一般状態が悪化したため4月8日子後不良とみなし安楽死処置した。

剖検所見概要：肺胸膜は凹凸不整で失沢。肺剖面には全葉性に米粒大から鶏卵大の黄白色結節多数を認めた。結節の一部には器質化が認められた。その他，肝臓にも肺と同様の微小灰白巣の密発，腎臓の混濁腫脹，全身リンパ節の水腫性ないし髓様性腫大，胸腺の菲薄化などがみられた。

病原検索：肺の結節病巣から，*Mycobacterium avium-intracellulare* complexが分離された。

組織学的所見：肉眼的に肺に観察された肉芽腫結節の中心部は大食細胞と多核巨細胞から構成されていた（写真1，H・E，×300）。大食細胞ないし多核巨細胞は細胞

質に富み，細胞質内には多くの微小空胞が認められ，空胞内にはZiehl-Neelsen染色に陽性を示す抗酸菌が多数認められた（写真2，H・E，×600；写真3，Ziehl-Neelsen染色，×600）。一方，大食細胞および多核巨細胞の細胞質内には好酸性の桿状ないし針状物も観察された。好酸性桿状ないし針状物はZiehl-Neelsen染色陰性，Masson Trichrome染色およびAzan染色陽性，PAS反応，Alcian blue染色，SudanⅢ染色およびFeulgen反応陰性を示した。電顕的にはmitochondriaと関連的な結晶物として観察された。結節周囲は軽いリンパ球浸潤と結合組織によって囲繞されていた。その他，臓器の変化として，脾臓は胚中心および英動脈周囲の細胞の減数ないし萎縮性を示し，全身各リンパ節は濾胞の粗鬆化と副皮質領域のリンパ球の減数を示していた。

本例は，肉眼ならびに組織所見から非定型的抗酸菌による肉芽腫性肺炎であった。定型的抗酸菌である結核症とは乾酪壊死巣の有無，菌の出現頻度などにより明らかに区別された。本症例における発病に関連的と思われる宿主側の要因は，胸腺，脾臓および全身リンパ節における細胞性免疫の障害が考えられた。また，本例の感染門戸は，病変の分布および臨床所見を考慮すると経鼻感染が示唆された。わが国における馬での報告は見当たらない。

病理組織学的診断：*Mycobacterium avium-intracellulare* complexによる馬の肉芽腫性肺炎と診断された。